

社会的迷惑行為における空間の主観的共有感の影響

東北工業大学大学院 学生会員 ○菅野 稚絵
東北工業大学 正会員 菊池 輝

1. はじめに

さまざまな集団や個人が集う公共空間においては、その場にふさわしい行動を判断し振る舞うことによって、運営・維持が成り立っている。しかし近年、情報化社会の発展や生活空間の拡大等により、社会的迷惑行為による問題やその解釈は増加・拡大傾向にあり、公共施設の運営にも影響を及ぼしている。また、人口構造の変化に伴い公共事業への投資が減少している我が国において、社会的迷惑行為の解明は公共空間のより効率的な運営・維持の避けては通れぬ課題となっている。本研究では、社会的迷惑行為発生場面の違いに着目し、場面による空間認識と、迷惑行為による心理的要因が与える社会的迷惑行為評価への影響を検討することを目的とする。

2. 方法

- (1) 調査対象者 宮城県・青森県内の大学に通う大学生 326 名（男性 218 名、女性 108 名）。
- (2) 調査方法 質問紙調査を行った。講義時間やサークル活動等で一斉配布しその場で回収、若しくは郵送で配布・回収した。
- (3) 調査項目 4 つの各場面（電車・地下鉄車両内/仙

台駅前のペデストリアンデッキ/集合住宅の共用部/大学の食堂）における迷惑だと思ふ行為（大声でのおしゃべり/スマホ操作に夢中/ゴミの放置/飲食/通路・空間をふさぐ/音漏れ/強い匂い/必要以上の身だしなみの整え/喫煙）の順位付けを行った。場面に対する質問項目として既往研究で計測された空間認識（主観的公共領域¹⁾/他者認識²⁾/公私空間意識^{2) 3)}）の質問と、行為に対する質問として既往研究で計測された心理指標（迷惑認知⁴⁾/恥意識⁵⁾/自己制御⁶⁾/社会的態度⁷⁾/記述的規範⁶⁾/主観的規範⁶⁾）の質問を 7 件法と数値自由記入にて計測した。さらに、今回新たに設定した共有感（空間共有感/時間共有感）も質問項目に追加した（質問項目詳細は表-1 を参照）。

3. 結果

(1) 尺度の内的整合性

はじめに、尺度の内的整合性を検証するために α 係数を用いて信頼性の検討を行った。紙面の都合上、共有感（空間共有感/時間共有感）、迷惑認知（迷惑認知自己/迷惑認知他者）の結果のみ表-2 に示す。共有感では集合住宅のみ内的整合性が高く、空間共有感と時間共有感の値は比例していることが示された。迷惑認知ではすべての場面において内的整合性が高いことが示された。

表- 2 質問項目		
場面に対する質問項目		
主観的公共領域	人多様性	様々な年齢や立場の人が集まっていると思いますか？
	目的多様性	人々は様々な目的をもって利用していると思いますか？
共有感	空間共有感	人々がこの場所を共有していると思いますか？
	時間共有感	人々との程度「この場所で一緒に過ごしている感覚」がありますか？
他者認識	他者認識1	身近な人と一緒に利用することがありますか？
	他者認識2	人々に親密さを感じますか？
公私空間意識	自由振舞	自由にふるまうことができますか？
	公私認識	あなたにとってプライベートなイメージと公的なイメージのどちらが強いですか？
行為に対する質問項目		
迷惑認知	迷惑認知自己	あなたはどの程度迷惑だと思いますか？
	迷惑認知他者	社会一般の人はどの程度迷惑だと感じていると思いますか？
恥意識	恥意識自己	あなたがその行為を行ってしまったとき、どの程度恥ずかしいと思いますか？
	恥意識他者	他者がその行為を行っているとき、どの程度恥ずかしいと思いますか？
自己制御		
社会的態度		
記述的規範	記述的規範友人	友人のうちどれくらいがその行為を行っていると思いますか？
	記述的規範同年代	同年代のうちどれくらいがその行為を行っていると思いますか？
主観的規範	主観的規範友人	友人たちはあなたがその行為をしている場面をみかけたらどのように反応（賛成・反対）すると思いますか？
	主観的規範家族	家族はあなたがその行為をしている場面をみかけたらどのように反応（賛成・反対）すると思いますか？

表- 1		
	共有感	迷惑認知
電車	$\alpha=0.588$	$\alpha=0.889$
ペデストリアンデッキ	$\alpha=0.535$	$\alpha=0.874$
集合住宅	$\alpha=0.748$	$\alpha=0.912$
食堂	$\alpha=0.667$	$\alpha=0.921$

(2) 一元配置の分散分析と多重比較

次に、場面と空間認識、および各場面で順位付けされた迷惑だと思ふ行為 1 位から特に支持された 5 つの行為（大声でのおしゃべり/ゴミの放置/通路・空間をふさぐ/強い匂い/喫煙）と心理的要因に統計的な差があるかを検証するために、一元配置の分散分析と多重比較

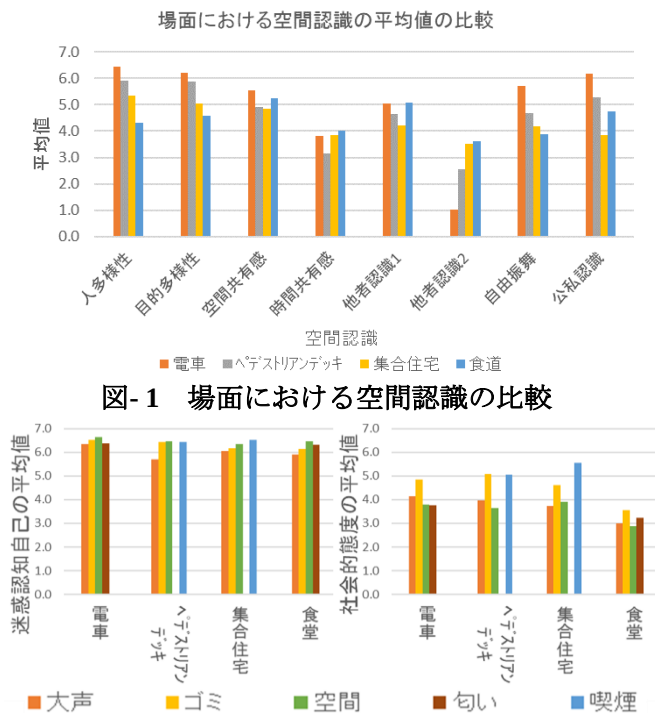


図-1 場面における空間認識の比較

図-2 迷惑行為における心理的要因の比較

を行った。

① 場面における空間認識の検証

全ての空間認識の項目において場面間で有意差が認められた($p<.01$)。また、図-1 より時間共有感、他者認識1、他者認識2以外の全ての空間認識の項目で電車が最も高い値を示していることが言える。多重比較では人多様性、目的多様性、他者認識1、他者認識2、自由振舞、公私認識において、ほぼすべての場面間で有意な差が見られた。

② 場面別・各迷惑行為における心理的要因の検証

ここでは紙面の都合上、迷惑認知自己と社会的態度の結果のみ記載する。迷惑認知自己については、ペデストリアンデッキが($F(21.372, 302.769)=6.235$, $p<.01$)、食堂が($F(13.191, 437.781)=3.214$, $p<.05$)と有意な差が見られた。多重比較よりペデストリアンデッキではゴミと空間と喫煙-大声間で有意な差が見られた($p<.01$)、食堂では空間-大声間で有意な差が見られた($p<.05$)。また、図-2 左より全場面において大声が最も低い値を示していることが言える。社会的態度については、全場面において行為間に有意差が認められた($p<.05$)。多重比較より、電車ではゴミ-空間と匂い間で、ペデストリアンデッキではゴミと喫煙-大声間および空間間で、集合住宅ではゴミと喫煙-大声間、喫煙-ゴミと空間で、食堂ではゴミと匂い-大声および空間で有意な差が見られた($p<.05$)。また、図-2 右よ

り全場面においてゴミと喫煙が全体的に高い値を、大声と空間が全体的に低い値を示している。

(3) 二元配置の分散分析

次に、場面間と行為間において心理的要因の平均値に統計的な差があるか検証するために、二元配置の分散分析を行った。結果、全ての心理的要因において場面と行為の間に交互作用が存在しないことが示された。また、迷惑認知自己、社会的態度では場面間および行為間でその平均値に差があることが示された。さらに、迷惑認知他者、恥意識自己、自己制御、自己制御認知、記述的規範友人、記述的規範同年代、主観的規範友人、主観的規範家族では行為間でその平均値に差があることが示された。また、恥意識他者では場面間および行為間でその平均値に差がないことが示された。

4. 考察

場面によって空間認識が異なること、同じ場面でも迷惑行為の種類によって迷惑のとらえ方が異なることがわかった。特に、集合住宅の共用部では、喫煙を迷惑だと思ふ値がペデストリアンデッキの場合と同等であるのに対し、ペデストリアンデッキよりも規制すべきだと考えている人が多い。これは、集合住宅では一緒に過ごしているという認識がペデストリアンデッキより高く、時間的長さや共有している空間的な大きさから喫煙による副流煙など、自分に影響する度合いがペデストリアンデッキよりも高いと感じるためだと考えられる。

参考文献

- 1) 厚井理沙ら(2004).都市空間の領域認識についての基礎的考察, 土木学会年次学術講演会講演概要集(59)pp4-348
- 2) 谷芳恵(2014).青年の公共空間における社会的迷惑と抑制要因の検討—他者との関係性と状況適合性に着目して—, 神戸大学学術成果リポジトリ <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/thesis2/d1/D1006170.pdf>, 平成31年1月17日参照
- 3) 小嶋(2015).電車内の迷惑行為に関する研究:私的-公的空間意識と迷惑行為との関連, 金城学院大学論集.人文科学編 12(1), pp136-148,
- 4) 高木彩(2005). 社会的規範の知覚と迷惑行動の関連, 社会心理学会第46回大会, ポスター発表
- 5) 中村真(2010). 恥意識が社会的迷惑行為および社会的逸脱行為の促進・抑制に及ぼす影響規範意識が低い仲間との不一致に起因する恥意識は社会的逸脱行為を促すのか, 日本パーソナリティ心理学会第19回大会発表論文集 114.
- 6) 佐藤秀香(2016). 駅構内における歩きスマホ行動要因モデルの検討および行動抑制を目的とした介入の効果検証, 産業・組織心理学会大会発表論文集
- 7) 斎藤和志(1999). 社会的迷惑行為と社会を考慮すること, 愛知淑徳大学論集(24)pp67-77